



2022年に開催された第7回世界のウチナーンチュ大会では、新型コロナウイルス感染症の蔓延による一年の延期、各国の混乱や日本への入国制限といった困難を乗り越え、故郷沖縄へと結集する世界中のウチナーンチュの想いが改めて確認されました。日本国内でも有数の移民県として知られる沖縄は、世界各地の県系移民とその子孫との特別な繋がりを有しています。その繋がりは心情的なものに留まらず文化的、経済的、人的交流を通して双方を高めあう可能性を秘めています。

本シンポジウムは、沖縄から国内外への出移民の事情、アジアや南米の県系移民によるメディアや文芸の実践、沖縄本島北部地域に焦点を当てた県系移民の足跡をふまえて、故郷沖縄と出移民先との歴史的繋がりを再確認し、今後の更なる紐帯の在り方について考える機会とします。

ウチナーンチュの移民 軌跡と紐帯

■シンポジウム

プログラム 全体進行: 麻生 玲子 (名桜大学准教授)

開会挨拶 13:30-13:40

嘉納 英明 (大学院研究科長)

シンポジウムの趣旨 13:40-13:50

麻生 玲子 (名桜大学准教授)

基調提案 13:50-14:30

戦前のウチナーンチュの移民と日本の敗戦による「引揚げ」

榮野川 敦 (うるま市文化財課主査/前うるま市立図書館長)

シンポジウム 14:40-16:00

ファシリテーター: 上原 なつき (名桜大学准教授)

沖縄県内市町村史における「移民」編の刊行状況 榮野川 敦 (うるま市文化財課主査)

ブラジルのウチナーンチュとエスニック・メディア 長尾 直洋 (名桜大学准教授)

20世紀前半の台湾におけるウチナーンチュと短歌 屋良 健一郎 (名桜大学上級准教授)

やんばる 世界を拓くー沖縄北部地域の<人の移動>ー 小川 寿美子 (名桜大学教授)

質疑応答・情報交換 16:00-16:50

閉会挨拶 16:50-17:00

清水 美里 (名桜大学准教授)



2023. 6/18日 13:30~17:00(海外移住の日)

沖縄市民会館 中ホール 参加対象者/[地域・一般の皆様] 参加費無料(事前申込不要)

■主催: 名桜大学大学院国際文化研究科(国際文化システム専攻) ■共催: 名桜大学環太平洋地域文化研究所 名桜大学国際学部国際文化学科

■問い合わせ先/名桜大学環太平洋地域文化研究所 〒905-8585 名護市字為又1220番地の1 TEL: 0980-51-1107